



2022/02/03

AWS re:Invent 2021

~ re:Cap Media & Entertainment ~

Yuta Ishii

Solutions Architect

Amazon Web Services Japan G.K.



質問

- 書き込んだ質問は、主催者にしか見えません
- 今後のロードマップに関するご質問はお答えできませんのでご了承下さい

- ① 吹き出しをクリック
- ② 質問を入力
- ③ Sendをクリック



資料

- 本日の資料は、アンケートに回答いただきました方へ資料のダウンロード先をご案内します

画面遷移

- “～の画面を待機中です”などで、画面遷移しない場合、ブラウザのリロードをお試し下さい

内容についての注意点

- 本資料では 2022 年 2 月時点のサービス内容および価格についてご説明しています。最新の情報は AWS 公式ウェブサイト(<http://aws.amazon.com>)にてご確認ください。
- 資料作成には十分注意しておりますが、資料内の価格と AWS 公式ウェブサイト記載の価格に相違があった場合、AWS 公式ウェブサイトの価格を優先とさせていただきます。
- 価格は税抜表記となっています。日本居住者のお客様には別途消費税をご請求させていただきます。

自己紹介

- Yuta Ishii
- Amazon Web Services Japan G.K.
Solutions Architecture
Enterprise Solutions Architecture
Media Division
- Solutions Architect



Agenda

1. AWS re:Invent 2021 開催概要
2. re:Invent の前後で発表された M&E 関連 AWS Update 紹介
3. re:Invent の M&E 関連セッション紹介
4. re:Invent re:Cap パートまとめ
5. Inter BEE 2021、Siggraph Asia 2021 関連 re:Cap

1. AWS re:Invent 2021 開催概要



AWS re:Invent 2021 開催概要

AWS によるクラウドコンピューティングについての世界規模の「学習型」カンファレンス

- 2021 年 11 月 29 日（月）～12 月 3 日（金）
- オフライン（ラスベガス）とオンラインの双方で開催。オンライン参加の場合は無料で参加可能

5 つの基調講演に加えて多数のサービス発表やセッション等をご提供

The screenshot shows the Japanese landing page for AWS re:Invent 2021. At the top, there's a navigation bar with links like 'お問い合わせ', 'サポート', '日本語', 'アカウント', and 'コンソールにサインイン'. The main header features the 'AWS re:Invent' logo and the dates '11 月 29 日 (月) ~ 12 月 3 日 (金)'. Below this, it states 'ラスベガス (有料) & オンライン (無料) で開催' and includes a prominent 'オンライン参加登録' button. A secondary button 'オンライン参加登録の流れ' is also visible. The main body of the page has a dark blue background with white text. It highlights 'AWS の最新アップデートを誰よりも早く入手できる 5 日間' and '日本語によるセッションも視聴可能！'. A paragraph describes the event as a 10-day learning opportunity. At the bottom, it provides specific dates and times for the 2021 event, noting that the online version is free.

aws
re:Invent 製品 ソリューション 料金 ドキュメント 学習 パートナーネットワーク AWS Marketplace カスタマーサポート イベント さらに詳しく > Q

お問い合わせ サポート 日本語 アカウント コンソールにサインイン

AWS re:Invent

11 月 29 日 (月) ~ 12 月 3 日 (金)
ラスベガス (有料) & オンライン (無料) で開催

[オンライン参加登録](#)

[オンライン参加登録の流れ](#)

AWS の最新アップデートを誰よりも早く入手できる 5 日間
日本語によるセッションも視聴可能！

今年で 10 回目を迎える『AWS re:Invent』は、AWS のクラウドサービスに関わる技術的なセッション・ハンズオンなどを提供しており、お客様が主体的に体験できる学習機会が豊富な AWS 最大のラーニングカンファレンスです。

AWS re:Invent 2021 は 11 月 29 日 ~ 12 月 3 日 (アメリカ太平洋標準時) にラスベガスで開催され、オンラインでは無料でご参加いただけます。基調講演、リーダーシップセッション、新サービス発表、様々なブレイクアウトセッションでは AWS の最新アップデートをいち早く入手いただけます。さらに、データベース・機械学習・分析・ネットワーク・アプリケーションデベロッパー・教育などのソリューション別日本語セッションや、日本のエバンジェリストが解説する Daily re:Cap セッションもご用意しています。ぜひご参加ください。

The screenshot shows the 'Keynotes' section of the AWS re:Invent 2021 website. It features a dark blue background with a large, abstract orange and blue graphic. The 'Keynotes' title is prominently displayed. Below the title, there's a paragraph encouraging users to join the five keynotes and be the first to hear the latest from AWS. A sidebar on the right offers options for users who missed sessions, including watching on-demand content. At the bottom, there's a section for 'Adam Selipsky Keynote', featuring a photo of Adam Selipsky and a brief description of his presentation.

re:Invent [Register now](#) [Virtual login](#)

Keynotes

Join our five keynotes and be the first to hear the latest from AWS. All the keynotes from re:Invent 2021 are available live for our registered virtual attendees, with repeat and on-demand viewing options available also.

re:Invent 2021
Missed any of the sessions?
Watch keynotes, leadership sessions, and hundreds of breakout sessions on demand. Register now to get free virtual access.
[Watch on demand content](#)

[Adam Selipsky](#) [Sumit Sivasubramanian](#) [Peter DeSantis](#) [Werner Vogels](#) [Global Partner Summit](#)

Adam Selipsky Keynote

Adam Selipsky, AWS CEO, takes the stage to share his insights and the latest news about AWS customers, products, and services.

AWS re:Invent 2021 関連リソース

- AWS re:Invent 2021 オンデマンドで公開中 | AWS
<https://aws.amazon.com/jp/about-aws/events/2021/reinvent/>
- AWS Events
<https://www.youtube.com/c/AWSEventsChannel/videos>
- Blog: Top Announcements of AWS re:Invent 2021
<https://aws.amazon.com/blogs/aws/top-announcements-of-aws-reinvent-2021/>
- Blog: re:Invent 2021で発表したメディア & エンターテインメント ワークロード関連のリリース
<https://aws.amazon.com/jp/blogs/news/jpmne-reinvent-2021-releases-and-launches-for-me-workloads/>
- AWS re:Invent 2021 速報
https://d1.awsstatic.com/webinars/jp/pdf/services/20211203_AWSBlackBelt_AWS-reinvent2021_digest.pdf
<https://youtu.be/5Xb3n--Cb54>

2. re:Invent の前後で発表された M&E 関連 AWS Update 紹介



M&E 関連 AWS Update 紹介

- Amazon S3 関連の Update
- データ転送料金の無料範囲の拡大
- Amazon EC2 G5 インスタンスの提供を開始
- Amazon Linux 2022 のプレビューを発表
- 新しい Amazon Inspector (V2) を提供開始
- 1U / 2U モデルの Outposts Server を提供開始
- Amazon Aurora MySQL version 3 を提供開始
- MediaConnect が Fujitsu QoS protocol をサポート

Amazon S3 関連の Update

S3 Intelligent-Tiering



S3 Standard (S3 標準)



S3 Standard-IA (S3 標準-IA)



S3 Glacier Instant Retrieval



S3 Glacier Flexible Retrieval



S3 Glacier Deep Archive



S3 One Zone-IA (S3 1ゾーン-IA)



AWSグローバル インフラストラクチャ	3つ以上のアベイラビリティゾーン (AZ)						1つのAZ
想定されるデータタイプ	アクセスパターンが 変化するデータ	頻繁にアクセスさ れるアクティブ データ	アクセス頻度が低い データ	めったにアクセス されないデータ	アーカイブデータ	長期保存のアーカ イブデータ	再生可能でアクセ ス頻度が低いデー タ
設計上の耐久性	99.999999999%	99.999999999%	99.999999999%	99.999999999%	99.999999999%	99.999999999%	99.999999999%
設計上の可用性	99.9%	99.99%	99.9%	99.9%	99.99%	99.99%	99.5%
可用性(SLA)	99%	99.9%	99%	99%	99.9%	99.9%	99%
レイテンシー	ミリ秒単位の アクセス	ミリ秒単位の アクセス	ミリ秒単位の アクセス	ミリ秒単位の アクセス	分から時間単位の 復元 (数分～12時間)	時間単位の 復元 (12～48時間)	ミリ秒単位の アクセス
取り出し料金	なし	なし	GBあたり	GBあたり	GBあたり	GBあたり	GBあたり
最低保存期間	—	—	30日	90日	90日	180日	30日
最小オブジェクトサイズ	—	—	128KB	128KB	40KB	40KB	128KB
ストレージ価格 *	0.025 ～ 0.002 USD/GB 月	0.025 ～ 0.023 USD/GB 月	0.0138 USD/GB 月	0.005 USD/GB 月	0.0045 USD/GB 月	0.002 USD/GB 月	0.011 USD/GB 月

* 2022年1月 東京リージョンの容量価格（各ストレージクラスで、リクエストや管理の料金があります）

Amazon S3 関連の Update

S3 Intelligent-Tiering



S3 Standard (S3 標準)



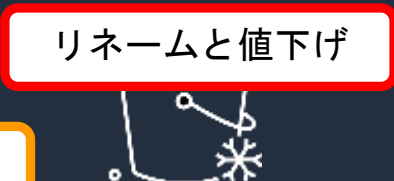
S3 Standard-IA (S3 標準-IA)



S3 Glacier Instant Retrieval



S3 Glacier Flexible Retrieval



S3 Glacier Deep Archive



S3 One Zone-IA (S3 1ゾーン-IA)



AWSグローバル インフラストラクチャ	3つ以上のアベイラビリティゾーン (AZ)						1つのAZ
想定されるデータタイプ	アクセスパターンが 変化するデータ	頻繁にアクセスさ れるアクティブ データ	アクセス頻度が低い データ	めったにアクセス されないデータ	アーカイブデータ	長期保存のアーカ イブデータ	再生可能でアクセ ス頻度が低いデー タ
設計上の耐久性	99.999999999%	99.999999999%	99.999999999%	99.999999999%	99.999999999%	99.999999999%	99.999999999%
設計上の可用性	99.9%	99.99%	99.9%	99.9%	99.99%	99.99%	99.5%
可用性(SLA)	99%	99.9%	99%	99%	99.9%	99.9%	99%
レイテンシー	ミリ秒単位の アクセス	ミリ秒単位の アクセス	ミリ秒単位の アクセス	ミリ秒単位の アクセス	分から時間単位の 復元 (数分～12時間)	時間単位の 復元 (12～48時間)	ミリ秒単位の アクセス
取り出し料金	なし	なし	GBあたり	GBあたり	GBあたり	GBあたり	GBあたり
最低保存期間	—	—	30日	90日	90日	180日	30日
最小オブジェクトサイズ	—	—	128KB	128KB	40KB	40KB	128KB
ストレージ価格 *	0.025 ～ 0.002 USD/GB 月	0.025 ～ 0.023 USD/GB 月	0.0138 USD/GB 月	0.005 USD/GB 月	0.0045 USD/GB 月	0.002 USD/GB 月	0.011 USD/GB 月

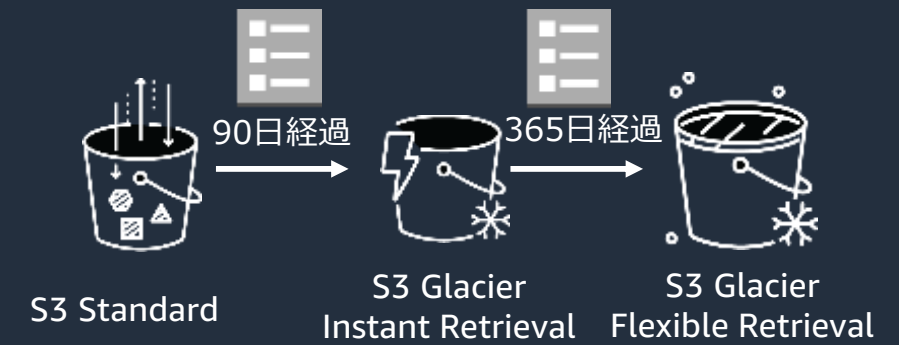
* 2022年1月 東京リージョンの容量価格（各ストレージクラスで、リクエストや管理の料金があります）

S3 ストレージクラスの活用

Q. アクセスパターンを事前に予測可能か？

No → S3 Intelligent-Tiering を活用 (+ Option: アーカイブ層の利用)

Yes → ライフサイクルを活用してストレージクラスを操作



ライフサイクル利用時の主な考慮事項

- 取り出し頻度および許容可能なレイテンシー
- S3 に保存しておく必要のある期間
- オブジェクトのサイズ
- 許容可能なランニングコスト

これらを考慮の上、Tag や Prefix、オブジェクトサイズの Filter 条件を組み合わせでライフサイクルルールを設定

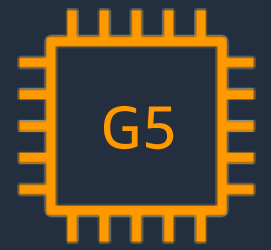
The screenshot shows the 'Lifecycle rule configuration' page in the AWS console. It includes fields for 'Lifecycle rule name' (with a placeholder 'Enter rule name' and a note 'Up to 255 characters'), 'Choose a rule scope' (with radio buttons for 'Limit the scope of this rule using one or more filters' (selected) and 'Apply to all objects in the bucket'), 'Filter type' (with a note 'You can filter objects by prefix, object tags, object size, or whatever combination suits your usecase.'), 'Prefix' (with a placeholder 'Enter prefix' and a note 'Add filter to limit the scope of this rule to a single prefix.'), 'Object tags' (with a note 'You can limit the scope of this rule to the key/value pairs added below.' and an 'Add tag' button), and 'Object size' (with checkboxes for 'Specify minimum object size' and 'Specify maximum object size').

データ転送料金の無料範囲の拡大

AWS から外部に送信するデータ転送料金について無料利用枠が拡大

- AWS リージョンからインターネットへのデータ転送に関して
 - (旧) 1 GB / リージョン / 月 → (新) **100 GB** / リージョン / 月
 - EC2 / S3 / ELB などからインターネットに向けた通信が対象
- Amazon CloudFront からのデータ転送について
 - 毎月の無料利用枠が 50GB (最初の 12 ヶ月) から **1TB (無期限)** に増量
- 2021 年 12 月 1 日の利用分から自動適用済み
- Organization 配下のアカウントに個別で適用はされない点は注意 (従来どおり)

Amazon EC2 G5 インスタンスの提供を開始



- NVIDIA A10G Tensor Core GPU を搭載した G5 インスタンスの提供を開始
- 各 A10G GPU は 24 GB Mem, 80 RT cores, 320 3rd gen NVIDIA Tensor Cores 搭載
- CPU は第 2 世代 AMD EPYC プロセッサを搭載
- クラウド編集やレンダリング、機械学習の学習や推論などの用途で
- リリース時点では東京・大阪リージョンでは未提供

NETFLIX

"With the new Amazon EC2 G5 instances, we can provision higher-end graphics workstations that offer up to 3x higher performance compared to workstations with EC2 G4dn instances. With G5 instances, content creators have the freedom to create more complex and realistic content for our viewers."

- Ben Tucker, Technical Lead, Animation Production Systems Engineering - Netflix

Amazon Linux 2022 のプレビューを発表

クラウドアプリケーションを開発・実行するために安全で安定した実行環境を提供することを目的に設計された Amazon Linux 2022 (AL2022) を発表

- Fedora project がアップストリーム
- 2 年毎にメジャーバージョンを提供し、5 年間の LTS（長期サポート）を提供
- 四半期毎のマイナーリリースで最新ソフトウェアを利用可能
- 追加費用なしで、全ての AWS の商用リージョンでプレビューが可能
（プレビュー中のため本番環境では利用しないこと）

新しい Amazon Inspector (V2) を提供開始

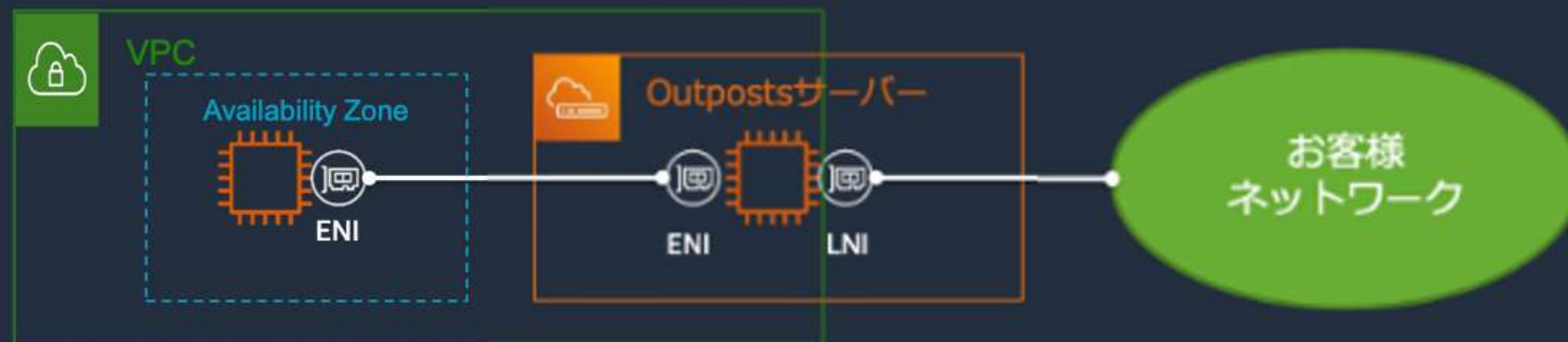
ソフトウェアの脆弱性や意図しないネットワーク露出領域を継続的なスキャンで検知する脆弱性管理サービス

- EC2 および ECR 上のコンテナイメージのスキャンをサポート
- 有効化するだけで自動スキャンと継続的スキャンが可能
- AWS Organizations と統合され一元的に集約し可視化可能
- 東京も含めた全19リージョンで一般利用可能
(15 日間の Free trial も提供)
- 旧 Inspector は Inspector Classic に改名



1U / 2U モデルの Outposts Server を提供開始

- re:Invent 2020 で提供予定をアナウンスしていた Outposts (1U / 2U) を提供開始
 - 1U モデル：Graviton2、C6gd.16xlarge までのリソースを搭載
 - 2U モデル：Intel CPU、c6id.16xlarge or c6id.32xlarge までのリソースを搭載
- 日本国内でも利用をリクエスト可能
- 従来の Outposts と同じくエンタープライズサポートは必須
- 設置については、お客様側（や、お客様手配のベンダー）で実施する必要



New – AWS Outposts Servers in Two Form Factors

<https://aws.amazon.com/blogs/aws/new-aws-outposts-servers-in-two-form-factors/>

Amazon Aurora MySQL version 3 を提供開始



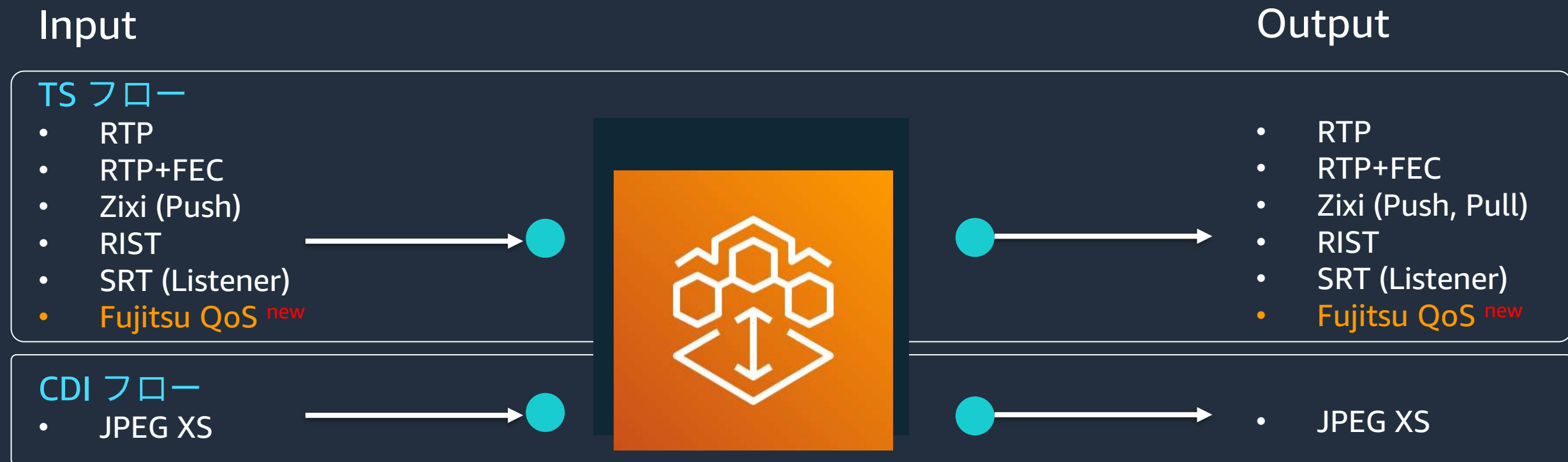
MySQL 8.0 との互換性を持った Amazon Aurora MySQL 3 が一般提供開始に

- リリース時点では MySQL 8.0.23 と互換性 / Aurora MySQL 3.01 -> MySQL 8.0.23
- Global Database, RDS Proxy, Parallel Query などの Aurora の主要な機能もサポート済み
- Aurora MySQL を利用可能なすべてのリージョンで利用可能
- Aurora MySQL を利用する際のバージョン選定の指針は以下の通り
 - 新規ワークロードや、将来性を重視する場合は Aurora MySQL 3 を利用することを推奨
 - LTS が必要な場合は Aurora MySQL 2 (MySQL 5.7 互換) を検討 ※ ただし Aurora MySQL 3 の LTS も将来予定
 - Aurora MySQL 1 (MySQL 5.6 互換) の新規利用は非推奨

MediaConnect が Fujitsu QoS protocol をサポート

柔軟かつ信頼性の高い映像伝送ワークフローを迅速かつ高い費用対効果で構築可能な MediaConnect において Fujitsu QoS protocol のサポート開始

- MediaConnect が Fujitsu の QoS protocol のサポート（入力/出力、Public/VPC）を開始
- 東京リージョンも含めた MediaConnect を利用可能な既存のリージョンすべてで利用可能



Support for Fujitsu QoS protocol now available in AWS Elemental MediaConnect

<https://aws.amazon.com/about-aws/whats-new/2021/12/fujitsu-qos-protocol-aws-elemental-mediaconnect/>

3. re:Invent の M&E 関連セッション紹介



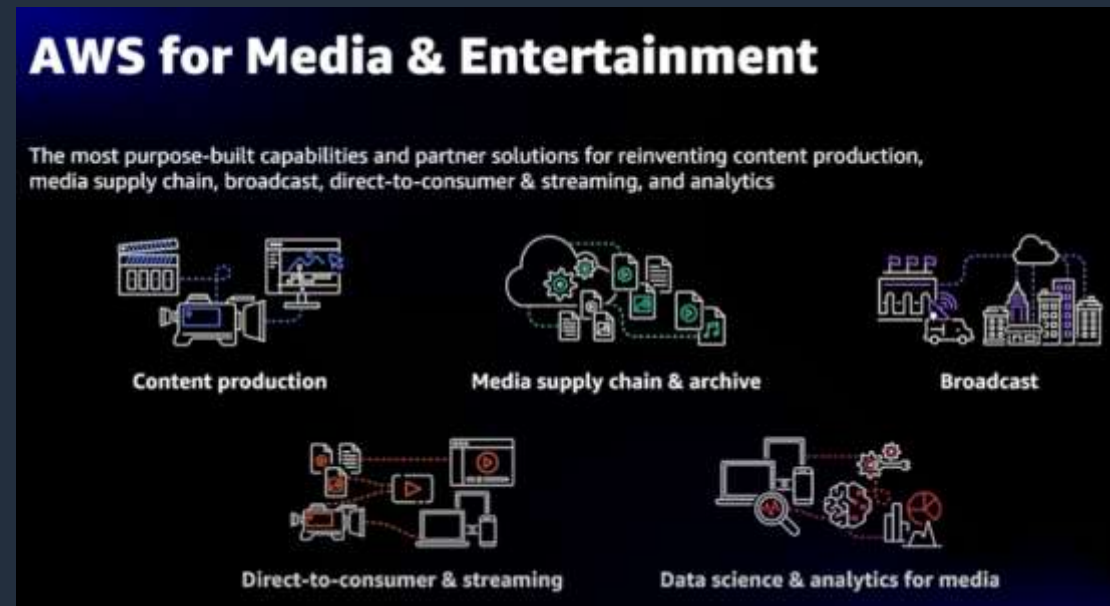
re:Invent の M&E 関連セッション紹介

- Transform and innovate with AWS for media and entertainment
<https://www.youtube.com/watch?v=r-NzVwZtkko>
- A new reality for content production
<https://www.youtube.com/watch?v=VwsAJKsmNno>
- Transforming broadcast production, playout, and fan experiences
<https://www.youtube.com/watch?v=sLg6Nnw6R0g>

Transform and innovate with AWS for media and entertainment

M&E 業界に対する AWS の取り組みなどを紹介した基調講演セッション

- ✓ **Content production**: Artists が Remote で Global に Collaboration 可能で効率的な制作が可能
- ✓ **Media supply chain & archive**: 高度に複雑化したワークロードを支える様々なソリューション
- ✓ **Broadcast**: 現在 2,900 以上の Broadcaster の Channel が AWS を Origin として Broadcast
- ✓ **Direct-to-consumer & streaming**: 15 年以上に渡る OTT 事業者を支えてきた経験と実績
- ✓ **Data science & analytics for media**: 視聴体験の改善などに機械学習は必須のテクノロジー

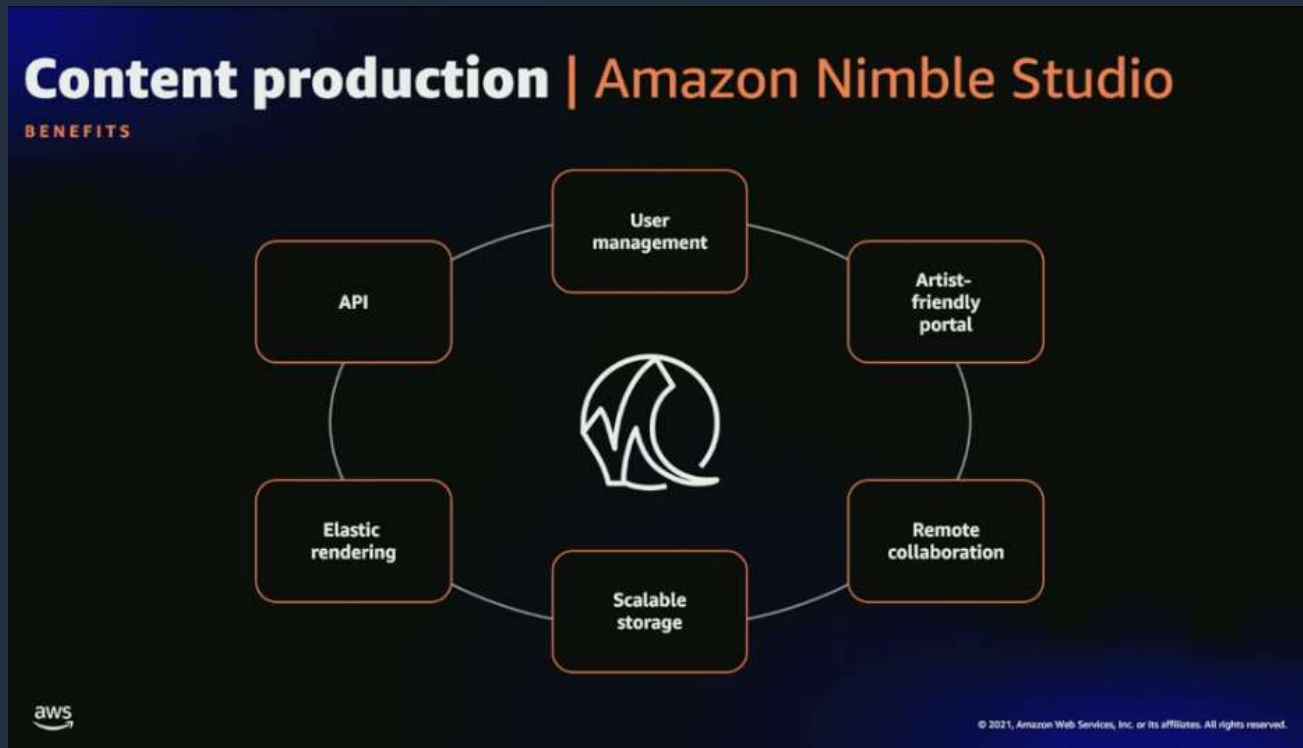


A new reality for content production (1/3)

コンテンツ制作に関わる方を対象に、クリエイティブワークフローを加速するために利用可能なサービスや機能、お客様事例などを紹介したセッション

- コンテンツ制作における**トレンド**: Remote Production | Accelerating pipelines | Controlling costs
- コンテンツ制作に必要な**コンポーネント**: Virtual workstations | Rendering | Infrastructure

Amazon Nimble Studio



Content production | Amazon Nimble Studio

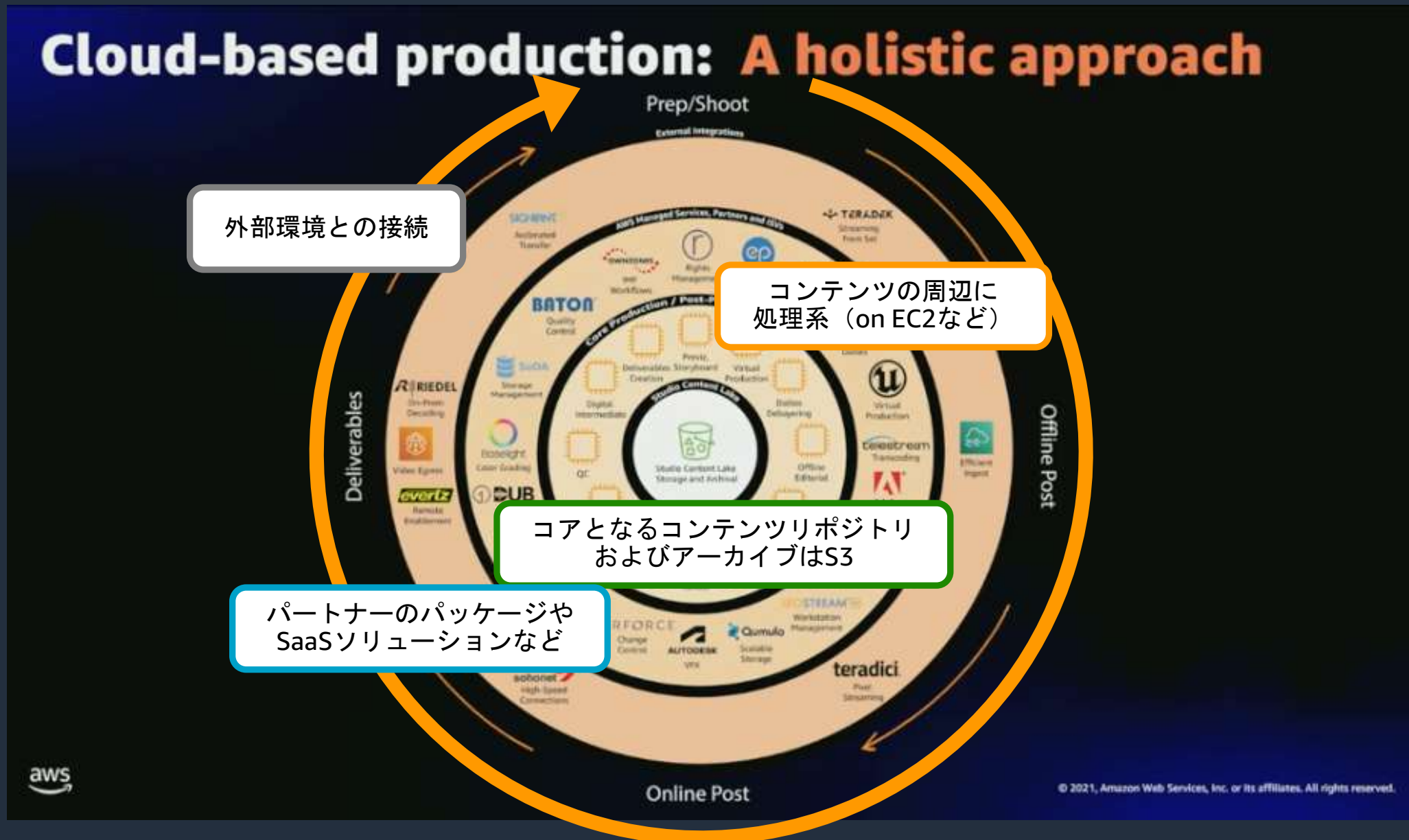
- Launched **April 2021**
- Generally available in the US West (Oregon), US East (N. Virginia), Canada (Central), Europe (London), Asia Pacific (Sydney) Regions and the US West (Los Angeles) Local Zone
- What we're working on: **ease of use, collaboration, and openness**

aws

© 2021, Amazon Web Services, Inc. or its affiliates. All rights reserved.

A new reality for content production (2/3)

Implementing cloud based workflows



Best practice

- Efficient ingest
- Templated workstations
- Workstation management
- Remote enablement
- Studio-grade security

A new reality for content production (3/3)

Pop Family Entertainment 社の COO による Nimble Studio の活用事例の紹介

- Nimble Studio と Unreal Engine を活用した 3D アニメーションの制作事例
- 複雑化した制作 Pipeline をシンプルにするために踏んだ要件整理のプロセスも紹介
- AWS 上に Remote Studio 環境を整備することで国内での Remote work だけでなく海外との Collaboration でも大きなチャンス

Why we love Nimble



Rendering



Security



User-friendly interface



Scalable resources



High performance



Software integration



Artist workflow

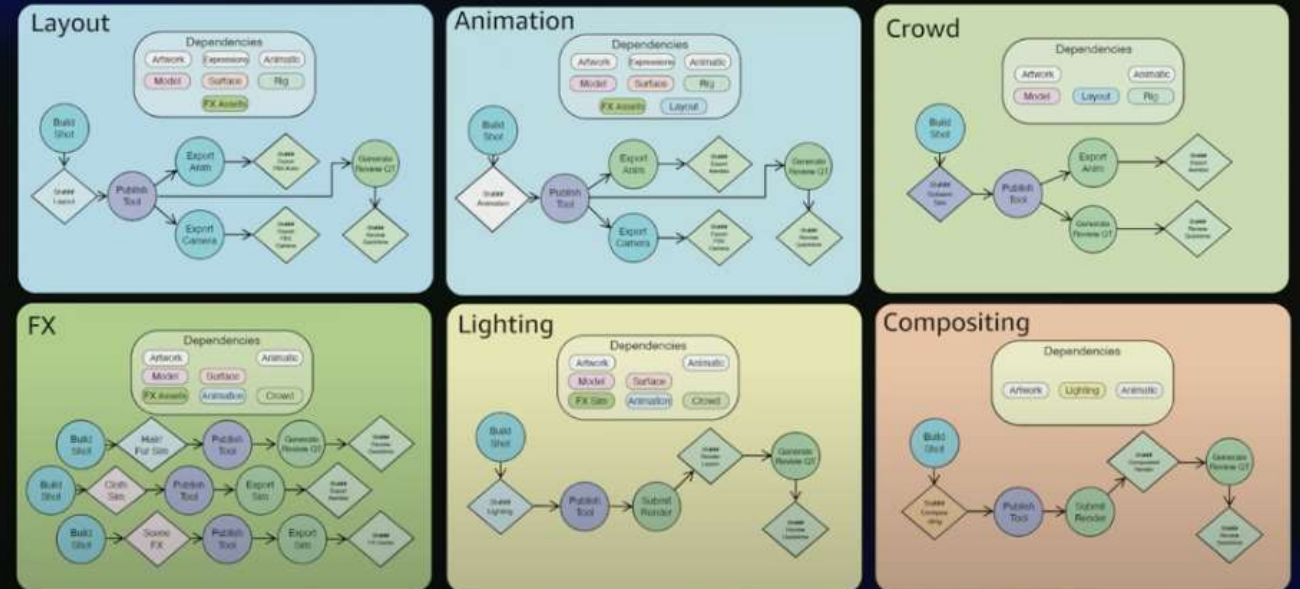


Remote working



© Pop Family Entertainment 2021

Pop-Nimble pipeline | Dependencies

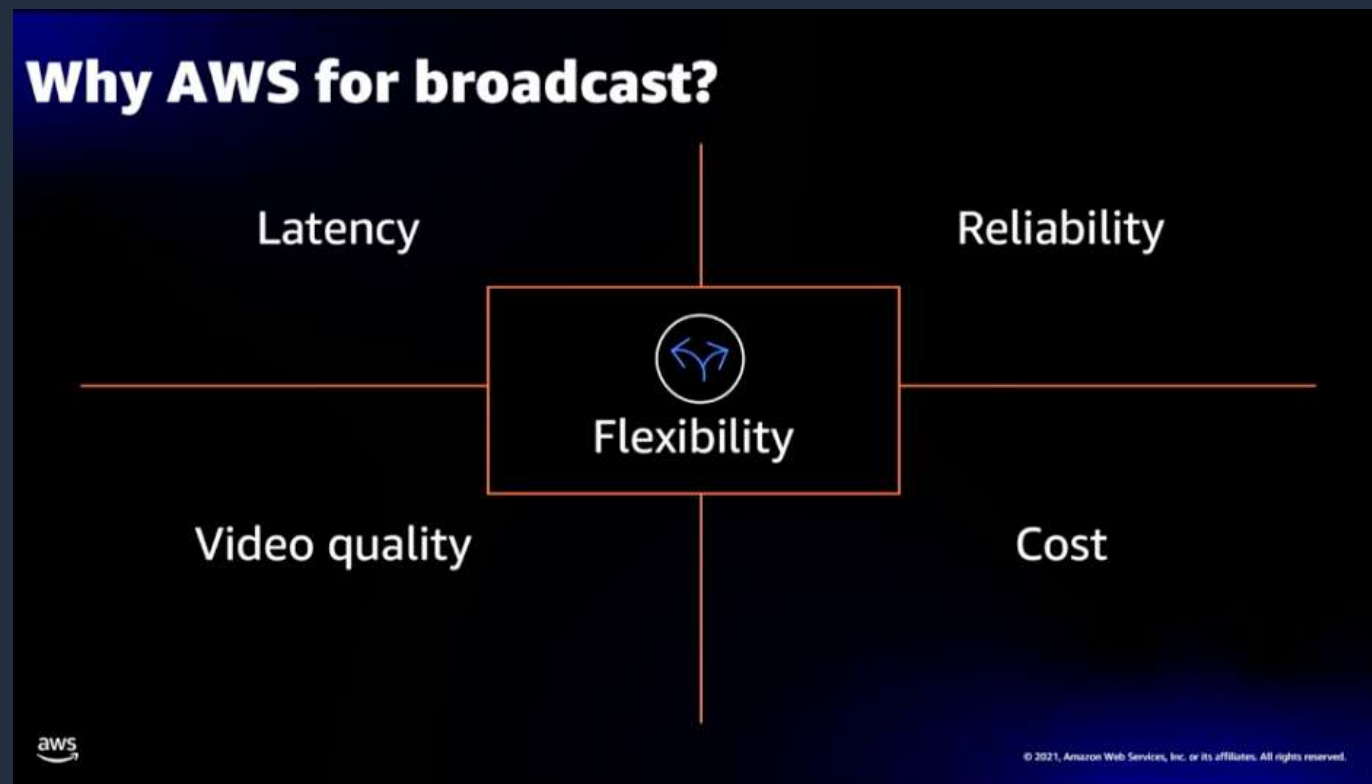


© Pop Family Entertainment 2021

Transforming broadcast production, playout, and fan experiences (1/5)

AWS を活用した放送業務の変革事例の紹介セッション

In one year, we expanded from roughly 1,600 playout channels originating on AWS to **about 2,900** now. Customers like A&E, Cinedigm, Discovery, NBC Olympics, PAC 12, ViacomCBS, and Warner Media.




Transforming broadcast production, playout, and fan experiences (2/5)

Sky News UK: COP26 Climate Conference Live production

- オンプレミスであれば構築に 6 ヶ月 + テストに 1 ヶ月はかかっていた規模のイベント
- AWS を活用することで初期検討から立ち上げ完了までをわずか **6 週間**に大幅に短縮
- Vizrt solutions (Viz Vector, Viz Trio, Viz Engine, Viz Mosart) + EC2, S3, NICE DCV, MediaConnect

Building sustainable production facilities in the cloud



Problem


Sky News UK required a production facility, closely matching their current production environment, to produce **live coverage of the 12-day COP26 Climate Conference**

Challenges

- No traditional facilities available
- Limited time and budget to build new facilities
 - Six weeks from first conversation to on-air
- No time to re-train staff on "other solutions"
- Quality, resiliency, and low carbon footprint was critical
 - Key sponsor at COP26 with commitment to NCZ by 2030

Results

- Designed and delivered in **6 weeks**
- Integrated with existing NRCS – **minimal training required**
- **Efficient Operation**, staffed with 4 people: Dir, Prod, Sound, Tech
- **96 hours of live coverage with 100% success** – across DTH, OTT and Sky Glass
- **Near-zero latency** – 120 ms round trip
- **Repeatable with CI/CD best practices** – solution easily available to other lines-of-business

© 2021, Amazon Web Services, Inc. or its affiliates. All rights reserved.

Vizrt Live Production Solution



Cloud-first live solution using

- Viz Vector Plus for 4K video switching
- Viz Trio for real-time graphics playout
- Viz Engine for rendering and composition
- Viz Mosart for studio automation

Business benefits

- Replace traditional hardware restrictions with cloud-hosted software freedom for greater flexibility, scalability, and redundancy in your productions
- Use the best talent for the show, every time, with studio control from anywhere
- Easily and quickly adapt to the growing need to **produce more live content** and better stories with the same sources
- Better cost management with less up-front investment than traditional studio setups
- Extreme scalability to quickly react to changing production needs
- Incredible flexibility to easily access your cloud-hosted studio production tools from anywhere in the world

Powered by AWS

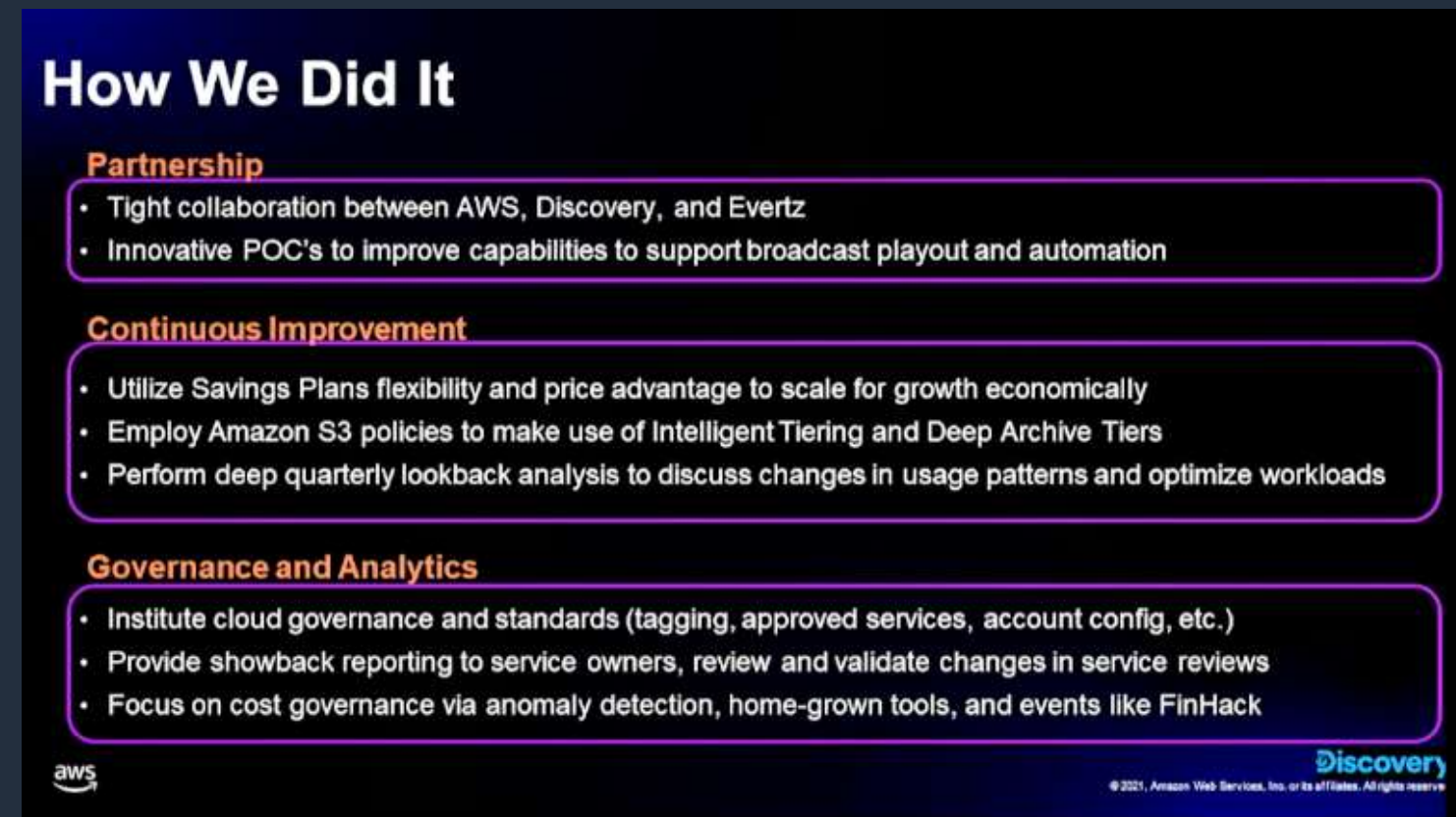
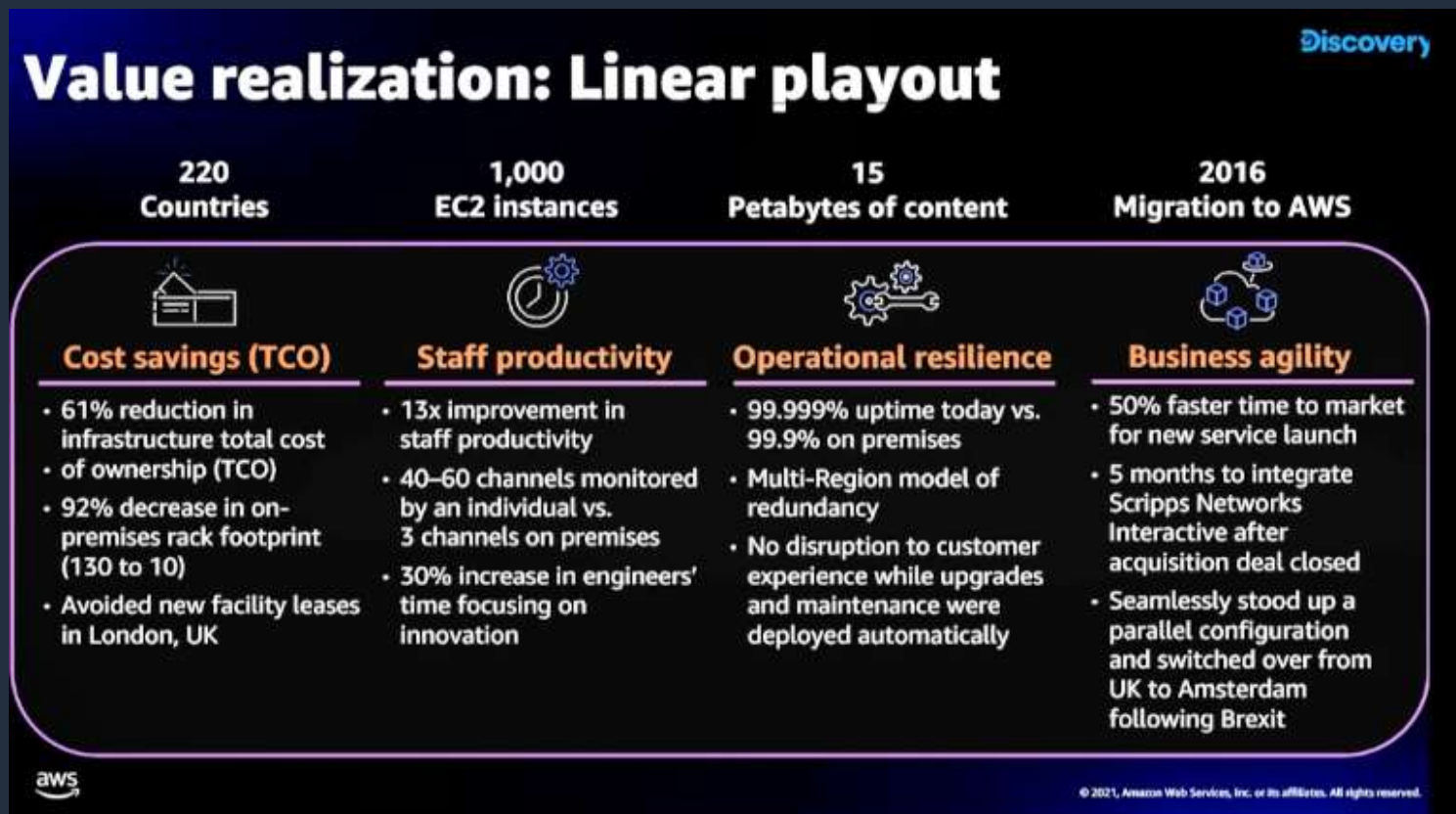
Amazon EC2 • Amazon S3 • Amazon NICE DCV • AWS Elemental MediaConnect

© 2021, Amazon Web Services, Inc. or its affiliates. All rights reserved.

Transforming broadcast production, playout, and fan experiences (3/5)

Discovery Inc. linear cloud playout – TCO study

- 2015 年 から着手した Cloud Playout のこれまでの歩みと得られたベネフィットなど
- どのようにしてプロジェクトを成功に導いたのか、現在どのような取り組みをしているのか
パートナーシップ、継続的な改善、ガバナンスと分析



Transforming broadcast production, playout, and fan experiences (4/5)

Discovery Sports and UCI (Union Cycliste Internationale)

- 自転車競技のファンに対するエンゲージメント強化の取り組み紹介
- 各種センサーデータを AWS 上の DataLake に蓄積しつつリアルタイムに利活用
- AWS が提供する Workshop や Professional Services (有償コンサルティング) も活用

Enhancing the fan experience

- Rider Stats are important to show what's going on with the athletes
 - Heart Rate
 - Bike RPM
 - Bike watts generated
 - Likelihood for overtake
- Data Lake foundations
 - Fans, riders, and sensors
 - Data which must be stored, catalogued, and accessed



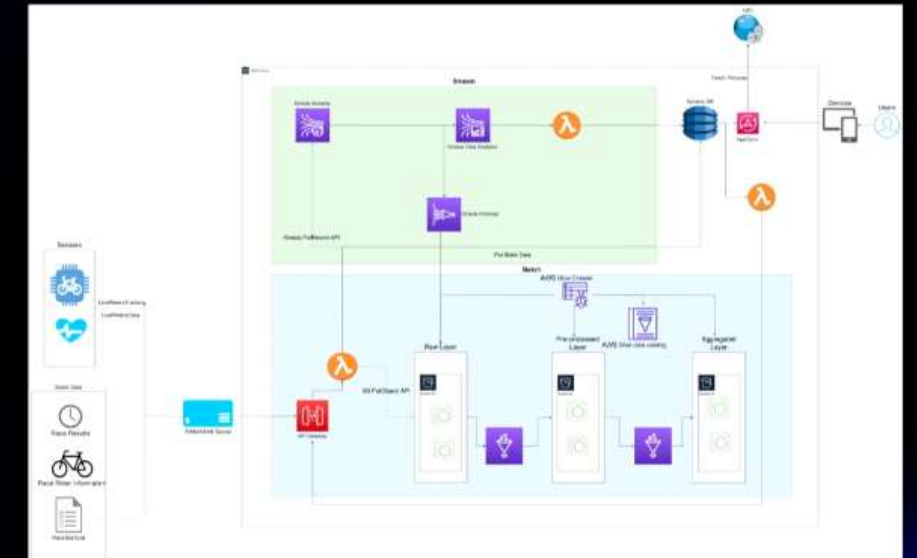
© 2021, Amazon Web Services, Inc. or its affiliates. All rights reserved.

Data ingest architecture

- AWS native services provided Discovery+ Sports quick and proven ways to collect real-time streaming data
- Data ingest solution
 - Amazon Kinesis
 - Amazon API Gateway
 - Amazon S3
 - Amazon DynamoDB
 - AWS Glue
 - AWS Lambda
 - AWS AppSync



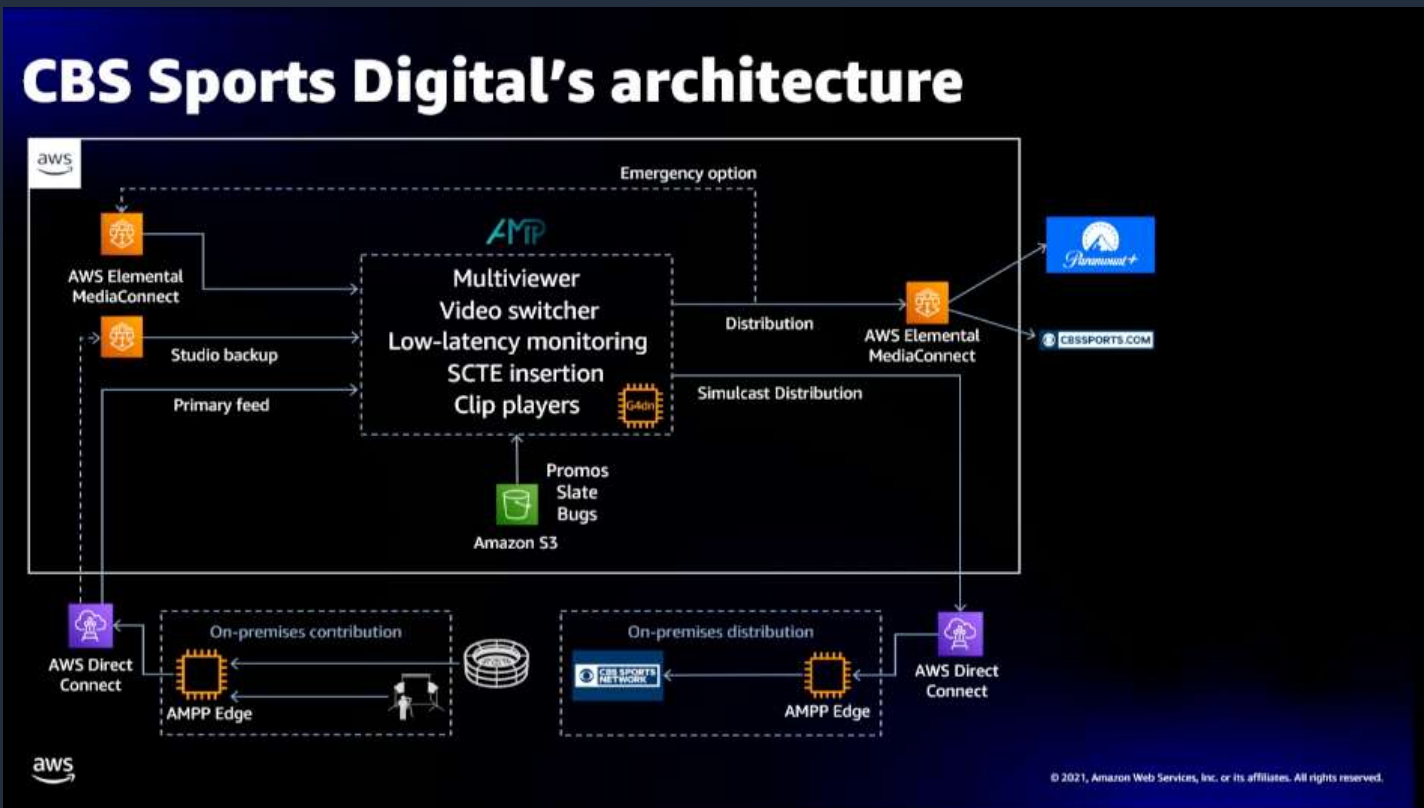
© 2021, Amazon Web Services, Inc. or its affiliates. All rights reserved.



Transforming broadcast production, playout, and fan experiences (5/5)

CBS Sports Digital's ongoing evolution of live sports production

- 年間 30,000 以上のライブイベント配信 (多い日には 500 /日 以上)
- Grass Valley の AMPP および AWS を活用した Master Control in the cloud も実現
- On prem to on prem round trip = less than 1 sec / Easy operation tool / Cost saving



Ease for Operations (solution)

1 operator : 4 matches

- Events requiring feed switching and ad insertion
- Ability to control matches individually or all simultaneously



4. re:Invent re:Cap パートまとめ



re:Invent re:Cap パートまとめ

- re:Invent 2021 はハイブリッド開催で VOD は引き続き無料で多数視聴可能
- re:Invent 2021 の発表内容をサマリした VOD や Blog など活用を
- AWS サービス Update は S3 / EC2 / Aurora を中心にご紹介
- 各詳細については参考リンクなども合わせて確認を
- AWS は経験および実績が最も豊富なクラウド事業者として M&E 業界のお客様の様々なワークロードを幅広くサポート

Thank you!

Yuta Ishii

ishiiyut@amazon.co.jp

